

## 2020 年会長年頭ご挨拶



一般社団法人日本自動認識システム協会  
代表理事会長 池田 隆之

2020 年（令和 2 年）の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

会員の皆さまにおかれましては、平素より当協会の事業活動に多大なご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、日本の経済状況は、全体では穏やかながらも回復基調にある一方、度重なる災害をはじめ、人手不足の深刻化、国内市場の縮小傾向など企業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあります。

こうした経済情勢の中、第 4 次産業革命（Industry 4.0）により IoT、ビッグデータ、AI（人工知能）、ロボット等の技術が本格的に浸透し始め、日本社会が抱える高齢化、人手不足、環境・省エネルギーなどの社会問題解決のため、政府が推し進める「Society5.0」「Connected Industries」の取り組みをはじめとした新しい動きが活発化しています。

当協会は、このような新たな動きへの対応強化の一環として、昨年新たに『画像認識プロジェクト』を立ち上げるなど、総合的な自動認識技術の活用促進を通じて、社会の安全・安心・社会的利便性向上に貢献すべく活動に取り組んでおります。

昨年の当協会の活動としては、2 月の「第 16 回自動認識総合展・大阪」に続き、9 月 11～13 日には、東京ビックサイトに於いて「第 21 回自動認識総合展」を開催致しました。今回も、多数の企業の皆様にご出展いただき、内容の充実を図ることができました。会場内には特設ブースを設け「未来をつなぐ AUTO-ID」と題し「自動認識技術で変わる未来」を判り易く活用シーン別にご紹介し、ご来場の皆様から好評をいただきました。

第 21 回自動認識システム大賞では、会員・非会員の各企業様がユーザー企業様と共同で応募された事例も多数あり、本取り組みに対する認知度がユーザー様にも一段と浸透してきているものと喜んでおります。

また、「自動認識システム技術者認定試験制度」については、「基本技術者認定講習・試験」を従来の東京 2 回、大阪 1 回の開催に加え、12 月には初めて福岡で開催いたしました。毎回、申込受付開始早々に定員近くに達するなど、関心度の高さが窺える状況となっており、本業界のレベルアップに大いに貢献しているものと感じております。

2020 年度の展示会は「東京オリンピック、パラリンピック」の開催により会場確保が

困難となり、「第 18 回自動認識総合展・大阪」を本年 12 月の開催とし、東京の「第 22 回自動認識総合展」は 2021 年 2 月へと時期を変更しての開催となります。ご出展の各企業様、ご来場者様をはじめ関係の皆様にはご迷惑をお掛けする事となりますが、ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

自動認識技術は、RFID やバーコード、生体認証などの既存技術をベースとしつつ、画像認識技術などの AI、IoT の新たな技術との融合や活用により、ますます用途の拡がりがあるものと確信しております。当協会は、自動認識技術と発展に向け、本年も業界関連団体、各省庁との連携を密にし、会員企業様をサポートしてまいります。

最後になりましたが、本年が皆様にとりましてより良い年となりますようお祈り申し上げますとともに、益々のご発展とご多幸を祈念申しあげ、年頭のご挨拶と致します。

了